

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101504		
法人名	有限会社たまきメディカルサポート		
事業所名	グループホーム ふれあい		
所在地	徳島県徳島市国府町和田字居内4-2		
自己評価作成日	平成22年7月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670101504&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他人に束縛されることなく人として当たり前にある利用者の権利を、職員が見守ったり支援している。在宅の延長のような安心できる生活を応援できるように努めている。利用者一人ひとりの様々な意向やスタイルを尊重しつつ、本人を取り巻く家族や地域、事業所職員、医療関係者が連携し協力し合っ、最後までその人らしく生き生きと生活できるように援助している。職員は、利用者一人ひとりのできることとできないことを見極められるように努めている。事業所を一つの大きな家族と捉え、困難な事態に遭遇しても1階と2階で助け合って乗り越えられるように心がけている。

事業所は、幹線道路から少し離れた静かな住宅地に位置している。施設長や管理者、職員は、自己目標を課し、研鑽に努めながらケアに取り組んでいる。地域行事へ参加したり近隣住民と日常的に交流している。また、災害時における地域との協力体制を築き、事業所の掲げる理念「地域の方との“ふれあい”を大事にし、利用者一人一人がその人らしい人生が送れるよう見守る」の実践に努めている。利用者は、趣味の作品を作ったり脳トレーニングに取り組む等、思い思いにその人らしい時間を過ごしている。開設から6年が経過し、地域に根ざした事業所となってきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方とのふれあいを大切に、地域の中で信頼され愛される事業所を目指している。現在では、地域での存在感が増し、理念も浸透してきている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくっている。全職員が、名札の裏に理念を書き込み、ミーティング等で確認して日ごろの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃(溝掃除、土手の草取り等)への参加や地区のお宮の掃除等を利用者と一緒に行い、地域の方との交流に努めている。また、散歩時の挨拶や近所の商店での買い物など、馴染みの関係を作っている。	町内会の清掃活動に参加している。小学生の体験学習や福祉専門学校生の実習、幼稚園児の受け入れを通して、地域とのつながりを大切にしている。また、近くの商店で買い物をしたり、散歩時に挨拶を交わすなど、地域の方と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方々への認知症ケアの普及に努めている。ホームヘルパー2級の実習生受け入れや福祉専門学校生の体験学習受け入れなどを行い、人材育成に力を注いでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際、サービス利用状況や課題、今後の取り組み等の説明や意見交換を行っている。また、会議録は全家族に送付している。	運営推進会議で事業所の活動報告や利用者・職員の異動、取り組み状況について報告し、意見交換をしている。出された意見を議事録に残し、家族に報告するとともに、職員間で共有してサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	関係法規・諸制度の改正等に伴う内容確認や直接窓口へ出向いての相談や情報交換に努めている。会議録や報告書は手渡しを心がけている。	運営推進会議の議事録や報告書を市担当課へ持参している。随時、窓口へ出向いて相談にのってもらうなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ちあげ、勉強会を開催している。精神面や言葉の拘束等には特に注意している。利用者一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かく把握することでなるべく鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。	身体拘束の具体的な行為について理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。安全確保のため、玄関は短時間施錠することがあるが、居間から中庭へのドアを常に開放しており、自由に外気に触れられるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を開催し、虐待も含めた勉強会や検討会、取り組み等の話し合いをしている。外部の勉強会にも参加し知識や情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修会等の受講に努めている。運営推進会議や家族会等で活用を呼びかけている。また、相談があった場合の対応等に備え、勉強会を継続的に実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や疑問点があった際は、十分に説明を行い、理解や同意を得ている。特に重度化した場合の対応の指針や治療が必要となった場合、入院中の居室の確保など、本人や家族に納得してもらえるように話し合いを重ねながら支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付係やご意見箱を設置している。日ごろの言動の中から、利用者の思いを汲み取るよう努めている。家族会や面会時には問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。	相談窓口を重要事項説明書に明示している。また、意見箱を設置している。表情や言動から利用者の思いを把握するように努めている。家族会や家族の来訪時に、要望や意見を表しやすいような関係づくりを心がけている。出された要望を検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り等で職員から意見を聞いている。日ごろの会話からもヒントになるようなことを耳にすると、皆に意見を募り、提案等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。要望や意見などを代表者と相談する機会も設けている。	管理者は、申し送り時に職員の意見を聞いている。出された意見等は、事業所内で検討したり、代表者会議や法人幹部会で話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員や管理者から意見を聞き体調面等にも考慮して働きやすい環境づくりに努めている。定年後の就業についても、継続して働ける環境をつくっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日ごろから、ケアの質の向上に努めている。法人内の勉強会や職場外研修に参加している。グループホーム協会や社会福祉協議会の研修を中心に、積極的に参加を促している。また、年間研修計画により、多くの職員が受講できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と情報交換を図り、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。相互評価事業に参加し、他のグループホームの工夫点や取り組み等を学び、今後のケアの参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や体験入居時など、実際に生活を見てもらうことで新しい環境に対する不安感の軽減に努めている。また、家族からも利用者の日ごろの体調や思いなどの情報収集を行い、入居後の安心のあるケアに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所で困難なことは法人内で相談・連携し、困り事や心配事に対処できる可能性を示し、不安材料を取り除くよう努めている。入居に至らない場合でも、相談に来られた家族の思いを真摯に受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けて、本人や家族の困っていること、必要な支援は何かなどを判断している。必要なサービスを見極められるよう努め、広く連携を図り、利用者一人ひとりにあったサービスを提供できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者から味付けや調理方法を教えてもらい一緒に調理することで、ともに支えあう良好な関係を築いている。利用者とともにできることを協力し合い、互いに支う関係であるという意識をもちながらともに生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、受診時に付き添ってもらい、医師の話を聞いてもらっている。また、他科受診をお願いし、ともに本人を支える関係づくりに努めている。日ごろの暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの医療機関や美容院等の利用は、家族の協力のもと支援している。また、お墓参りを続けている利用者もあり、利用者一人ひとりの生活習慣を尊重している。家族との外出や外泊なども情報交換しながら行っている。	家族の協力のもと、病院や美容院、お墓参り、外泊など、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の生き立ちや個性を把握し、気の合う者同士の語らいを支援したり、引きこもりがちの人には気を引き立てるような声かけをして、他の利用者と上手に関われない人が孤立しないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	折に触れて見舞いや様子をお聞きしている。電話や挨拶等でふれあう関係を続けている。また、関係医療機関や事業所に入居されている場合は、お見舞いに行く等家族とも交流を途切れさせないように配慮している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「サービス計画書」の利用者意向欄は、なるべく本人に記入してもらっている。意志疎通の困難な方には家族から情報を得ている。日ごろの会話や表情、行動から希望や悩み等を引き出すように努め、職員間で共有している。	日ごろの表情や動き、家族から情報を得て思いや意向を把握している。なるべく本人の言葉で意向を聞きだすよう努めている。アセスメントシートを活用し、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時などに本人や家族を通して状態や生活スタイルの把握に努めている。入居後も生活歴や環境等の情報収集を行っている。新たな情報は入居者台帳に追記した上で全職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「介護観察記録」で一日の心身状態の把握に努め、「ケアチェック表」で利用者一人ひとりに応じたプランの評価をしている。また、「役割分担表」で本人のできることを把握している。利用者にはそのひとらしく自由に生活してもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別プランを立案し、利用者の思いや要望を反映した本人の望むケアプランになるよう努めている。利用者や家族、主治医、全職員で意見を出し合い、利用者主体のプラン作成を心がけている。	利用者や家族、関係者から意見や要望を聞き、職員間で話し合っている。本人がより良く生活できるよう定期的、または状態変化に応じてモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況観察に努め、水分や食事摂取量、排便の有無などを記録している。全職員による状態の把握に努め、体調変化の早期発見や適切な対応に繋げている。ケアチェック表で1か月の評価を担当者が行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居の不安な方には体験入居をもらい、入居困難な場合は適切な他機関の紹介等も行っている。医療連携体制により、訪問介護や医師への相談等が24時間可能な体制となっている。リハビリが必要な場合には通所リハビリの支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育所との交流やボランティア、研修生の受け入れなどを行っている。行事の際には、家族の協力もある。運営推進会議には、地域包括支援センターの職員や民生委員の参加があり協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療・訪問栄養管理指導等に対応している。入居前からのかかりつけ医があれば、希望を尊重し受診してもらっている。早期対応を心がけ、受診結果は家族や職員で共有している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医で受診できるよう情報提供や通院の付きそい等を支援している。月2回、協力医療機関の訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日ごろの体調の変化を見逃さないよう健康管理を行い、協力医療機関の看護職に電話相談や訪問相談に応じてもらっている。介護職員と訪問看護ステーションの看護師とは気軽に相談できる関係にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関において入院を受け入れてもらっている。医療連携室を通して適切な入院医療機関等の紹介を受けることもある。また、職員は、なるべく見舞うように心がけている。家族とも回復状況等について情報交換を行いながら、早期退院の支援に向け取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンスや受診時の報告、法人の連絡会を通じ、状況変化等に伴う今後の方針を見極めている。また、日ごろから利用者や家族の意向を確認し合い、法人と全職員が連携を図り支援している。	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の方針を説明している。状態に応じて関係者間で話し合い、方針を共有しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関の勉強会で、緊急時の対応の方法等に関する講習を受けている。また他事業所と対応の方法等について情報交換を行っている。夜間においても、職員が慌てることなく対応できるよう緊急時のマニュアルを整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルがある。近隣の方へ呼びかけ、年2回(昼、夜)避難訓練を行っている。消防署に、防火・防災訓練計画書と責任者連絡網を届け出ている。緊急時連絡体制を構築し、非常用食料も備蓄している。	利用者とともに年2回、避難訓練を行っている。訓練には地域の方にも参加してもらい、災害時の協力体制を築いている。災害時に備えた物品の備蓄も行っている。しかし、消防署との連携体制が十分できていない。	防火・防災訓練計画書の提出前に消防署と相談するなどして、消防署員の指導が受けられる時に訓練を実施することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから、利用者一人ひとりの様子に配慮している。利用者の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけている。また、個人情報の保護に関する法律の勉強会に参加し、情報連携の際に生じる取り扱いの責任と管理を徹底している。	常に利用者一人ひとりに気を配り、誇りやプライバシーを損ねないような対応を心がけている。毎日の申し送り時に職員間で確認し合っている。実習生の受け入れ時、プライバシー確保の大切さについて十分話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食時のメニュー選びや買い物など、利用者の希望を聞いて選んでもらっている。役割についても、話し合いを行い分担表を作成している。利用者に複数の選択肢を用意し、自分で選択できる場面を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや生活リズムを尊重して支援している。その日のコンディションや様子をうかがいながら、本人の希望を聞いて、相談しながら過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と一緒に外出し、長年利用している美容院へ行っている方もいる。整容の乱れはさりげなくケアし、おしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。毛染めの希望があれば染色の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを一緒にしている。好きなメニューを聞き、時おり献立をリクエストの多い散らし寿司に替える等、食事を楽しんでもらっている。利用者と職員は、ゆっくりと同じ食事をし、会話を楽しんでいる。	準備や片付けを手伝ってもらっている。食材を食べやすい形態にしたり、自助具を使用するなど、自分のペースで食事できるように工夫している。職員と同じテーブルで食材の話などを楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランスに考慮した献立を立てている。水分量や食事量のチェックを行い、本人の希望や体調に考慮した食事提供に努めている。また、水分摂取量の少ない方には別の飲み物を出すなどの個別支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声かけを行い、自力でできる人や見守りの必要な人、介助の必要な人への支援をしている。また、かかりつけ歯科医の定期検診を受け、利用者の口腔ケア向上に繋げている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			ユニット1		
			実践状況	実践状況	
			次のステップに向けて期待したい内容		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適切な誘導や快適で自立した排泄の支援に努めている。入居時に紙パンツで昼夜ともポータブルトイレ使用だった方が、布パンツを使用し日中は外トイレ使用へと変化した方もいる。人工肛門の方の支援も行っている。	現在、おむつ使用者はいない。排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握している。紙パンツを使用し、声かけ誘導を行ってトイレでの自立した排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたメニューや手作りのおやつを工夫し、便秘の予防に努めている。水分摂取量の少ない利用者には、お茶だけでなく好みの飲み物で補っている。体操や散歩、廊下歩行など身体を動かす誘いかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望により、日中だけでなく夜間の入浴も支援している。しょうぶ湯やゆず湯パラの花びら湯で季節感を感じながら楽しんでもらうこともある。シャワー浴や足浴などは状況に応じて対応している。	毎日、日中だけでなく希望に応じて夜間の入浴も行っている。入浴を拒む時には、足浴をすすめるなど、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、日中は活動できるように支援している。温かい飲み物を提供したり、話しかけるなどして眠りにつく支援をしている。水囊の使用や冷暖房の調節をして安眠してもらえよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬の治療目的や用法、用量、注意事項等をファイルに綴じている。定期的に受診し、体調の変化等を伝えていく。職員は、利用者一人ひとりの治療目的を把握して服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の力に応じた役割分担表を作成している。無理強いせず、楽しみや出番を見出せるようにしている。切り干し大根作りや干し柿作り、お接待用の巾着作りを利用者のペースで作ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食やドライブ、食材の買い物と一緒に行くなど外出の機会をつくっている。天気の良い日には散歩に出かけ、歩行困難な方も車椅子を利用して外出を楽しんでもらっている。家族との外食を続けられている方もおり応援している。	日ごろから、中庭の花壇の水遣りや買い物散歩などで戸外へ出かけている。季節ごとの外出を計画的に実施し、気分転換や季節の移り変わりが感じられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力のもと、少額のお金を持っている人もいる。自分で管理の困難な方には事業所でお預りし、希望に応じて好きな物を買ってもらっている。預かり金チェック表にレシートを貼り、家族に確認とサインをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不安な様子が見受けられた時や申し出により、利用者自らが電話で話せるよう支援している。母の日の花や礼状(写真入り)、FAX、年賀状など手紙のやりとりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やリビングには、机や椅子、ソファがあり使いやすいように配置している。季節感が感じられるように、四季に合わせた飾り付けをしている。ホールの飾り付けは利用者に塗ってもらった物を掲示し、職員と一緒に作りあげている。	玄関に鉢花を置いている。日当たりのよい居間兼食堂に、利用者の作品やイベント時の写真を飾ったり広い食卓に季節の花を飾っている。浴室やトイレは清潔に保たれ、居心地よく暮らせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで思い思いに過ごせるように工夫している。廊下にはソファを置き、窓から外の景色を眺めるなどして居室やホール以外でも気の合った方と過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、タンスや時計、テレビ、じゅうたん等馴染みの持ち込み品が置かれ、家族の写真や飾り付けを掛けている。使い込んだ卓上テーブルや花の鉢を置いている方もいる。	各居室に洗面台を整備し、整容時のプライバシーが確保されている。テレビやソファ、家族の写真、好きな鉢植えの花を持ち込み、その人らしく居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	利用者一人ひとりが安全に自立した生活を送ることができるように、浴槽には手すりを設置したり滑り止めマット等を置いている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方とのふれあいを大切に、地域の中で信頼され愛される事業所を目指している。現在では、地域での存在感が増し、理念も浸透してきている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃（溝掃除、土手の草取り等）への参加や地区のお宮の掃除等を利用者と一緒にいき、地域の方との交流に努めている。また、散歩時の挨拶や近所の商店での買い物など、馴染みの関係を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方々への認知症ケアの普及に努めている。ホームヘルパー2級の実習生受け入れや福祉専門学校生の体験学習受け入れなどを行い、人材育成に力を注いでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際、サービス利用状況や課題、今後の取り組み等の説明や意見交換を行っている。また、会議録は全家族に送付している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	関係法規・諸制度の改正等に伴う内容確認や直接窓口へ出向いての相談や情報交換に努めている。会議録や報告書は手渡しを心がけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ちあげ、勉強会を開催している。精神面や言葉の拘束等には特に注意している。利用者一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かく把握することでなるべく鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を開催し、虐待も含めた勉強会や検討会、取り組み等の話し合いをしている。外部の勉強会にも参加し知識や情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修会等の受講に努めている。運営推進会議や家族会等で活用を呼びかけている。また、相談があった場合の対応等に備え、勉強会を継続的に実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や疑問点があった際は、十分に説明を行い、理解や同意を得ている。特に重度化した場合の対応の指針や治療が必要となった場合、入院中の居室の確保など、本人や家族に納得してもらえるように話し合いを重ねながら支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付係やご意見箱を設置している。日ごろの言動の中から、利用者の思いを汲み取るよう努めている。家族会や面会時には問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り等で職員から意見を聞いている。日ごろの会話からもヒントになるようなことを耳にすると、皆に意見を募り、提案等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。要望や意見などを代表者と相談する機会も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員や管理者から意見を聞き、体調面等にも考慮して働きやすい環境づくりに努めている。定年後の就業についても、継続して働ける環境をつくっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日ごろから、ケアの質の向上に努めている。法人内の勉強会や職場外研修に参加している。グループホーム協会や社会福祉協議会の研修を中心に、積極的に参加を促している。また、年間研修計画により、多くの職員が受講できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と情報交換を図り、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。相互評価事業に参加し、他のグループホームの工夫点や取り組み等を学び、今後のケアの参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や体験入居時など、実際に生活を見てもらうことで新しい環境に対する不安感の軽減に努めている。また、家族からも利用者の日ごろの体調や思いなどの情報収集を行い、入居後の安心のあるケアに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所で困難なことは法人内で相談・連携し、困り事や心配事に対処できる可能性を示し、不安材料を取り除くよう努めている。入居に至らない場合でも、相談にいられた家族の思いを真摯に受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けて、本人や家族の困っていること、必要な支援は何かなどを判断している。必要なサービスを見極められるよう努め、広く連携を図り、利用者一人ひとりにあったサービスを提供できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者から味付けや調理方法を教えてもらい一緒に調理することで、ともに支えあう良好な関係を築いている。利用者とできることを協力し合い、互いに支う関係であるという意識をもちながらともに生活している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、受診時に付き添ってもらい、医師の話聞いてもらっている。また、他科受診をお願いし、ともに本人を支える関係づくりに努めている。日ごろの暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの医療機関や美容院等の利用は、家族の協力のもと支援している。また、お墓参りを続けている利用者もあり、利用者一人ひとりの生活習慣を尊重している。家族との外出や外泊なども情報交換しながら行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の生き立ちや個性を把握し、気の合う者同士の語らいを支援したり、引きこもりがちの人には気を引き立てるような声かけをして、他の利用者と上手に関われない人が孤立しないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	折に触れて見舞いや様子をお聞きしている。電話や挨拶等でふれあう関係を続けている。また、関係医療機関や事業所に入居されている場合は、お見舞いに行く等家族とも交流を途切れさせないように配慮している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「サービス計画書」の利用者意向欄は、なるべく本人に記入してもらっている。意志疎通の困難な方には家族から情報を得ている。日ごろの会話や表情、行動から希望や悩み等を引き出すように努め、職員間で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時などに、本人や家族を通して状態や生活スタイルの把握に努めている。入居後も生活歴や環境等の情報収集を行っている。新たな情報は入居者台帳に追記した上で全職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「介護観察記録」で一日の心身状態の把握に努め、「ケアチェック表」で利用者一人ひとりに応じたプランの評価をしている。また、「役割分担表」で本人のできることを把握している。利用者にはそのひとらしく自由に生活してもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別プランを立案し、利用者の思いや要望を反映した本人の望むケアプランになるよう努めている。利用者や家族、主治医、全職員で意見を出し合い、利用者主体のプラン作成を心がけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況観察に努め、水分や食事摂取量、排便の有無などを記録している。全職員による状態の把握に努め、体調変化の早期発見や適切な対応に繋げている。ケアチェック表で1か月の評価を担当者が行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居の不安な方には体験入居をもらい、入居困難な場合は適切な他機関の紹介等も行っている。医療連携体制により、訪問介護や医師への相談等が24時間可能な体制となっている。リハビリが必要な場合には通所リハビリの支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育所との交流やボランティア、研修生の受け入れなどを行っている。行事の際には、家族の協力もある。運営推進会議には、地域包括支援センターの職員や民生委員の参加があり協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療・訪問栄養管理指導等に対応している。入居前からのかかりつけ医があれば、希望を尊重し受診してもらっている。早期対応を心がけ、受診結果は家族や職員で共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日ごろの体調の変化を見逃さないよう健康管理を行い、協力医療機関の看護職に電話相談や訪問相談に応じてもらっている。介護職員と訪問看護ステーションの看護師とは気軽に相談できる関係にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関において入院を受け入れてもらっている。医療連携室を通して適切な入院医療機関等の紹介を受けることもある。また、職員は、なるべく見舞うように心がけている。家族とも回復状況等について情報交換を行いながら、早期退院の支援に向け取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンスや受診時の報告、法人の連絡会を通じ、状況変化等に伴う今後の方針を見極めている。また、日ごろから利用者や家族の意向を確認し合い、法人と全職員が連携を図り支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関の勉強会で、緊急時の対応の方法等に関する講習を受けている。また他事業所と対応の方法等について情報交換を行っている。夜間においても、職員が慌てることなく対応できるよう緊急時のマニュアルを整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルがある。近隣の方に呼びかけ、年2回(昼、夜)避難訓練を行っている。消防署に、防火・防災訓練計画書と責任者連絡網を届け出ている。緊急時連絡体制を構築し、非常用食料も備蓄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから、利用者一人ひとりの様子を配慮している。利用者の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけている。また、個人情報の保護に関する法律の勉強会に参加し、情報連携の際に生じる取り扱いの責任と管理を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食時のメニュー選びや買い物など、利用者の希望を聞いて選んでもらっている。役割についても、話し合いを行い分担表を作成している。利用者に複数の選択肢を用意し、自分で選択できる場面を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや生活リズムを尊重して支援している。その日のコンディションや様子をうかがいながら、本人の希望を聞き、相談しながら過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と一緒に外出し、長年利用している美容院へ行っている方もいる。整容の乱れはさりげなくケアし、おしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。毛染めの希望があれば染色の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを一緒にしている。好きなメニューを聞き、時おり献立をリクエストの多い散らし寿司に替える等、食事を楽しんでもらっている。利用者と職員は、ゆっくりと同じ食事をし、会話を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランスに考慮した献立を立てている。水分量や食事量のチェックを行い、本人の希望や体調に考慮した食事提供に努めている。また、水分摂取量の少ない方には別の飲み物を出すなどの個別支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声かけを行い、必要に応じて見守りを行っている。利用者一人ひとりの習慣や力に応じた支援をしている。また、月・木曜日と一週間に2回は入歯洗浄を行い、口腔内の清潔保持に重点を置いて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行ったり状態に応じた対応を行っている。プライドを傷つけないように後始末もさりげなく行うなど、十分に配慮している。1日2回、布パンツを交換する方もおり清潔保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたメニューや手作りのおやつを工夫し、便秘の予防に努めている。水分摂取量の少ない利用者には、お茶だけでなく好みの飲み物で補っている。体操や散歩、廊下歩行など身体を動かす誘いかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望により、日中だけでなく夜間の入浴も支援している。しょうぶ湯やゆず湯、バラの花びら湯で季節感を感じながら楽しんでもらうこともある。シャワー浴や足浴などは状況に応じて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、日中は活動できるように支援している。温かい飲み物を提供したり、話しかけるなどして眠りにつく支援をしている。水囊の使用や冷暖房の調節をして安眠してもらえよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬の治療目的や用法、用量、注意事項等をファイルに綴じている。定期的に受診し、体調の変化等を伝えていく。職員は、利用者一人ひとりの治療目的を把握して服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の力に応じた役割分担表を作成している。無理強いせず、楽しみや出番を見出せるようにしている。切り干し大根作りや干し柿作り、お接待用の巾着作りを利用者のペースで作ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食やドライブ、食材の買い物と一緒にいくなど外出の機会をつくっている。天気の良い日には散歩に出かけ、歩行困難な方も車椅子を利用して外出を楽しんでもらっている。家族との外食を続けられている方もおり応援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力のもと、少額のお金を持っている人もいる。自分で管理の困難な方には事業所でお預りし、希望に応じて好きな物を買ってもらっている。預かり金チェック表にレシートを貼り、家族に確認とサインをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話できるように支援している。携帯電話を所持されている方もおり、使用方法等を説明するようにしている。家族へ2か月に1回、ふれあい便りを送付しており、本人からも手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やリビングには、机や椅子、ソファがあり使いやすいように配置している。季節感が感じられるように、四季に合わせた飾り付けをしている。ホールの飾り付けは利用者に塗ってもらった物を掲示し、職員と一緒に作りあげている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで思い思いに過ごせるように工夫している。廊下にはソファを置き、窓から外の景色を眺めるなどして居室やホール以外でも気の合った方と過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、タンスや時計、テレビ、冷蔵庫等の馴染みの持込み品が置かれていて、家族の写真を飾ったり手作りカレンダーを掛けている。利用者一人ひとりに応じた環境づくりを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	利用者一人ひとりが、安全に自立した生活を送ることができるよう滑り止めマットを設置するなど、環境整備に努めている。		